

「どう生きるか」から考えるACCP

思いを育てるACCP

—日ごろの会話から伝えてみませんか

これまでは医療関係者にインタビューを続けてきましたが、一般の方代表として、耳原総合病院倫理委員会の外部委員でもある健康友の会みみはらの江戸道子会長にお話を伺いました。

「医師は、こう語ります。」

「救急搬入されたときに、意識がない状態や、認知機能に衰えがあつて、自己決定ができないこともあります。その時には親御さんや子どもさんなど、ご家族に医療処置について選択を求めます。ご家族での意見の食い違いがあつたり、連絡が取れない場合もあります。『ご本人はこうしてほしいのだろうか?』と思いをさせるのですが、初診であることもあります。医療者は、判断に苦しむご家族があられても、一刻を争う事態では十分な話し合いができないですよね」

生き方を一緒に話し合う大切さ

江戸…3年ほど前に、友の会で『私のメッセージ』という事でエンディングノートを書き方を講義してもらいました。

私たち夫婦は、「判断に苦しむ思いを子どもたちにさせたくない」と思つて、エンディングノートを書いて娘に渡したら、「こんなに元気なのにそんな縁起でもない。聞

くりされたんでしょね。江戸…そうですね。やっぱり生き方や考え方を一緒に話し合っていくことが大切なんですよ。

「T子…受け取る側の気持ちもありますものね。」

共同意思決定をともに進めよう

江戸…この間、身近な友の会メンバーを亡くしました。その方はエンディングノートを書き残していませんでしたが、私たちにどう生きていきたいかが伝わってきていたように思います。だって、書いたその後に気持ちが変わることもありますからね。」

T子…「書いて終わりではない」ということですね。話し合いをして、そして書いておくことがよいベストということでしょうか?」

江戸…そうですね。それと、「かかりつけ医」を持つということも大切だと思います。その方は、病院ではなく、在宅でお亡くなりになりました。私もそうですが、みみはらとの付き合いは長くなって、自分の病気のこともすぐく理解されていたように思います。

T子…医療者と信頼関係

ができていたということでしょうか?」

江戸…そうだと思います。やはり、患者や家族は医療のことはわからないので、

一回説明を受けただけではなかなか理解できず、わからないことがわからないというか、納得のいくように聞けないんですよ。互いの思いを友の会活動を通して、職員のみなさんとも交流したいですね。地域に生活するこ

とと、医療の結びつきを一緒に考えたいと思います。

T子…そうですね。共同意思決定をともに進めるために、私たちが生活の場に足を運びたいと思います。

自身の考えを、回りにシェアして

江戸会長から、医師の確保に友の会の方々がどういう思いで関わっているのか、お聞きしました。『どんな医療を受けたか? 価値観を持っていか? 価値観を持っていか? 価値観を持っていか?』を医学生の方と日常のなかで話していくことは、医療者にとっても患者にとっても大切なことです。大事な命を預けるのですから。」

ペンネーム T子&Tigra

いつ何が起きるかわか

より納得できる選択をするためには、日ごろから「終焉の時期を迎えたときだけでなく、どのような治療・ケアを望んでいるのか、なにを大切にしたいのか」など、医療者と一緒に話し合っておく事が大切です。



新たな鳳クリニック 7つのコンセプト

鳳クリニックの現在の建物は、築40年が経過しており、新たな建物にしなければなりません。

①いのちと人権を守り、何でも相談できるクリニック

これまで、「いのちと人権」を守ることを大切に、無料低額診療の実施など、「お金のあるなしにかかわらず利用できるクリニック」を目指してきました。これからも「よろず相談所」として、ソーシャルワーク機能を維持するとともに、障がい者、LGBT、外国人など、現状の医療機関では、かかりづらさを感じる人たちに配慮したクリニックを建設します。

②患者さんに優しく、質の高い医療を提供し、かかりやすいクリニック

子どもから高齢者、女性を含めて、かかりやすいクリニックです。高齢化社会に対応し、在宅医療、認知症診療を充実させ、患者さんに優しく質の高い医療を提供します。また堺市西区の同仁会拠点医療機関として、耳原総合病院との連携を密にし、高度な医療要求にも対応していきます。大規模クリニックの利点を生かし、「グループ診療」に取り組めます。

③人権を大切に、医療・介護・福祉をトータルにサポートするクリニック

医療と介護を、患者さんや利用者さんとの「共同のいとなみ」としてとらえてきました。患者さんを含めたチーム医療や医療倫理に配慮した医療を提供して、「その人らしい生き方」を支えるとともに、ひまわり会や健康友の会みみはらなど、みみはらグループ西エリア運営協議会と

協力して、医療・介護・福祉をトータルにサポートするクリニックを目指します。

④地域に密着し、健康づくりの拠点になるクリニック

ヘルスプロモーションホスピタル (HPH：健康促進医療機関) に登録しています。クリニックに関係する人々だけでなく、地域の方々を含めた健康づくりに取り組みます。健診事業やワクチン接種事業に取り組み、地域の医療・介護・福祉機関との地域連携を進め、健康友の会みみはらと協力して、安心して住み続けられるまちづくりを目指します。(2面につづく)

こんなクリニックに…

「思い出をお聞かせください」ワークショップ

3月12日、耳原鳳クリニック4階多目的室を会場にワークショップを開催し、みみはら友の会会員6人、職員10人にご参加いただきました。

懐かしい写真をご持参いただいたり、みみはらと関わりの歴史を紙に書いて持ってこられたりと、和やかに開催されました。

それぞれの思い出をお聞きし、「こんなクリニックになったらいいな」など、新しいアイデアやご要望を寄せていただいたので、引き続きワークショップを重ね、ワクワク感をお届けしたいと思います。

